

校歌

法政大学校歌

作詞・佐藤春夫
作曲・近衛秀麿

一、若きわれらが命のかぎり

ここに捧げて(ああ)愛する母校

見はるかす窓(の)富士が峯の雪

蜚集めむ門の外濠

よき師よき友つどひ結び

法政 おお わが母校

法政 おお わが母校

二、若きわれらが命のかぎり

ここに捧げて(ああ)愛する母校

われひと共にみとめたらずや

進取の気象質実の風

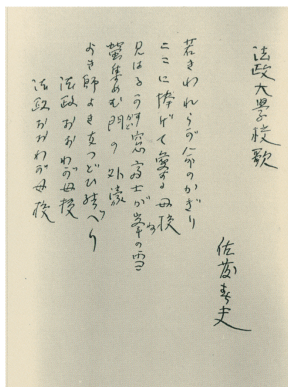
青年日本の代表者

法政 おお わが母校

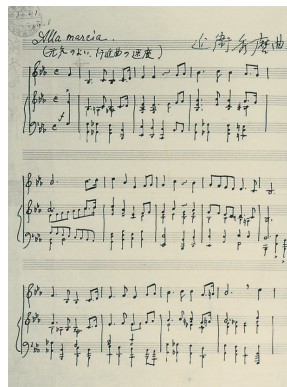
法政 おお わが母校



佐藤春夫
▼佐藤春夫筆の新校歌歌詞



近衛秀麿
▼近衛秀麿筆の新校歌楽譜



校歌の由来

1929(昭和4)年、学生の間到校歌作成委員会が結成され、同時に経費の募金運動が始まりました。「学生委員が、帽子を持って学生の間を回ると、すぐ帽子は銀貨でいっぱいになった」といわれています。無論、当時校歌がなかったわけではなく、現在行進曲として歌われている「名大いなれ法政」が校歌だったのです。しかし、「我等が法政の意気を示すべく」新しい時代にふさわしい校歌が待望されたのでしよう。

青春の烽火^{のろし}勝 承夫 作詞
平井康三郎 作曲

一、青春の烽火は高く
燃え立つよ吾等が胸に
ああ法政 不滅の生命
澆測とここにあふる

二、オレンジのその情熱と
その香り吾等が胸に
ああ法政 希望のひかり
学舎に今ぞそそぐ

三、新しき文化の理想
花開く吾等が胸に
ああ法政 スクラム堅き
躍進の若き力

法政 法政 吾等が母校

オレンジの園に

勝 承夫 作詞
平井康三郎 作曲

一、若い心の情熱こめて
匂うオレンジ輝やく希望
さあ歌おうよ自由の朝を
さあ歌おうよ二度ない春を

二、風も薫るよ外濠越えて
吾等生徒うらら法政の華
仰く青空世界に続く
さあ歌おうよ光の朝を

三、丘をはるかに富士ヶ嶺映えて
夢もあふれる母校の窓よ
さあ歌おうよ理想の園に
さあ歌おうよ真理の春を

吾等生徒うらら法政の華

学生歌

応援歌

若き日の誇り

法政大学応援団 作詞
岡村雅雄 作曲

法政 法政 法政
燃ゆる陽の生命こそ

沸る我等が血潮
今ぞ競技の試練
征覇を誓いて鍛えし腕
見よこの振興の気概
恐れぞなき力持て

征け闘え破れ堅壁を
我らが勝利の凱歌
おお高らかに叫ばん
若き日の誇りぞ

法政 法政 法政

若き獅子

清岡卓行 作詞
佐藤勝 作曲

オレンジの旗 爽やかに
世紀を超えて 伝統の
自由の風に ひらめけば
おお 法政 栄光の
前衛になふ 若き獅子
見よ 激突のたたかひに
汗血淋漓 うるはしく
勝利の星を つねに呼ぶ
法政 法政 たぐひなき
われらの母校 おお 法政

名大いなれ法政

為光 直経 作詞
瀬戸口藤吉 作曲

一、お濠に影うつして
いや妙にも花咲く
丘の桜眺めて吾が魂声あぐ
日の出するところより 日の入るところまで

二、千代田の城巡りて
いや繁くも伸び行く
緑の松仰ぎて吾が魂声あぐ
日の出するところより 日の入るところまで

三、朝の光うけて
いや白雲輝やく
真白の富士仰ぎて吾が魂声あぐ
日の出するところより 日の入るところまで

名大いなれ法政 名大いなれ法政

法政大学行進曲

暁の勇者

高橋俊夫 作詞・作曲
鈴木厚司 編曲

一、昇る朝日を 仰ぎ見て
我らは誓う 勝利の二文字
いざ行け いざ行け 暁の勇者
栄えある我らの その呼び名
響け天下に 法政 法政

二、猛き強者 集う時
たぎる闘志で 大地が燃える
いざ行け いざ行け 暁の勇者
栄えある我らの その呼び名
響け天下に 法政 法政

暁の勇者